竹資源有効活用のエキスパート

株式会社タケックス・ラボ

竹の抗菌性・除菌力に注目 抽出成分を製品化

日本に多く自生する竹は、竹細工等で活用されてはいたものの、その成分に注目した製品はかつてなかった。だが、竹の表皮から抽出したエキスには抗菌性・除菌力があり、微細多孔体である竹の繊維部分は断熱、吸音効果を有する。そこに着目したのがタケックス・ラボの清岡久幸社長だ。独自の研究開発で、竹の成分の有効性を証明し、数々の製品化に成功した日本唯一の会社である。

竹に注目したきっかけは、社長自身の闘病生活にあった。10代で難病にかかり「20歳までは生きられない」と宣告される。入院先の小児病棟で自分より小さい子どもが病と闘い、死を迎える場面を見てきた。我が子を看病する母親の姿にも衝撃を受けた。「多くのお母さんが、子どもに食べさせたものが悪かったのではないか、と自分を責めておられた。それ以来、食の安全性を思わずにはいられませんでした」と語る。

奇跡的な回復後、実家の竹工房を手伝っていた時、竹の皮をむいたところだけがかびることに気がついた。「竹にはすごい抗菌性がある。これを食品添加物として使えないだろうか、病気から回復したのはその使命があるからではないか」。当時20歳前後の彼女は、自宅で研究を開始、その成果を大学の研究室に持ちこみ検証を繰り返した。さらに、竹の抗菌性を学会で発表。それら化学的な立証があるのが同社の強みとなっている。モウソウチク抽出成分は、O157をはじめとする18種類の細菌に有効であることもわかり、信頼度は高い。

同社の製品は、飲食店で食中毒予防に使われるほか、モウソウチク抽出成分とトレハロースを原料にした食品添加物は、食品の風味を失わずに食品の日持ち向上やカビの抑制効果を持つため、パンやハンバーグ等の加工食品に使われている。その一方、木の120%の熱容量を持つ竹の特性を活かし、保温・断熱性に優れた住宅建材も手がけている。

竹をすべて使い切る

同社では竹の表皮は抗菌剤の原料に、中は細かく砕いて加工し、床材や家具部材、断熱・吸音材に利用している。さらに先端部分をガスや液化燃料に加工し、エネルギー源にすることも検討中である。まさに捨てるところがないのだ。「今まで竹は、成長が早いわりには使い道がなかったために、嫌われ者でした。当社では竹公害に悩む地域に、有効利用を提案しています」と話す清岡社長は、まず手始めに故郷の高知県でビジネスモデルを立ち上げた。

ほかの木の栄養分を奪う、日当たりが悪い、山崩れの原因になる等、悩みの種だった竹だが、3年で成長が完了するという特性も持つ。4年目の竹を伐採することで、竹林の再生サイクルを計画的に行うことが可能になるのだ。

竹資源有効活用のためのコンサルティング業も成功しつつある同社だが、決して利益重視に走らない。「母の思い」を根底に、一つの製品の安全性にこだわり、着実に仕上げていく姿勢は譲らない。

主な事業内容

竹を原料とした抗菌剤、食品添加物の研究開発・製造販売、または、医薬品・医薬部外品の研究開発・販売、竹資源有効活用事業に関するコンサルティング業務 等

株式会社タケックス・ラボ
Company Profile
住　所／〒564-0062
大阪府吹田市垂水町3-9-10
設　立／平成14年2月
資本金／1億7,715万円
従業員／21名（平成21年1月現在）
ＴＥＬ／06-6821-2554
ＦＡＸ／06-6821-4841

清岡久幸さん
代表取締役社長

大阪 17

http://www.takex-labo.com/

社長語録　女性の声・母親の声を拾い上げ、確かな物を提供したい。　清岡久幸